

*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ（四〇〇字詰原稿用紙で一二枚）までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

少しずつ「広場」の欄に原稿をお寄せくださる方が増えて、喜んでおります。これまでご覧のように、お寄せいただいた原稿は、まさにこの欄向きなものだと思われませんが、さらにもう少しバラエティーがあってもよいのではないかと考えております。▲後進として学ぶ点が多く、それ自身が医史学を形成する面も含んでいる連載の「医史学と私」は、第一回にお願いした諸先生の分が、一部遅れていた方のも含めて掲載を終ったので、次をお願いしております。謙遜して書いていただけないなどの場合もありますが、やがて引き続き興味をもって読んでいただけることでしょう。▲ご承知のとおり、本誌には日本語の論文のほかに裏表紙の側から始まる欧文の論文もあります。本誌は文部省の補助を受けており、その面からも欧文論文を含むことが求められています。▲また、欧文論文は日本人会員の執筆にかかると、ときには外国からのものもあり、後者は日本人会員を介して届けられる場合もあります。いづれにしても、投稿規定にある未発表のものという条件は、欧文論文についても該当するものであります。▲もちろん本誌読者のほとんどは日本人会員であり、医史学のような複雑なニュアンスを持った内容の記述には母国語が最も適している事実に変更はありません。原著・研究ノートでは短い欧文抄録の添付が要求されていますが、これは *native speaker* の方に目を通していただいております。ただ、内容に即してはじめて欧文の内容や題名を決められるという部分が残りますので、そのあたりにはなお改善の余地があるかもしれません。

(三輪 卓爾)